

大学生からのメッセージ

「忘れられた神社、忘れられた森」

北里大学 獣医学部 3年

和田真帆子

『鎮守の森』というものをご存じだろうか。神社を取り囲み、守るように存在する森のことであり、精霊崇拜の名残ともいわれている。田舎町で見かけたことがある人もいるかもしれない。境界線を引くように森の縁に鳥居や森の堀が置かれ、その中心に社がある形の一般的な神社とは異なるその姿は、見る者に強い印象を残すとともに、一つの疑問を抱かせる。なぜ信仰を集める場を隠そうとするのだろうか、と。

私の地元は、都会の中にある閑静な町だった。近くには大人から子どもまでの憩いの場となる森があった。日の出にはお年寄りや犬の散歩コースとなり、朝には通勤・通学の人々が森を抜ける。昼には避暑や森林浴を楽しむ人が訪れ、夕方になると子どもたちが森の中の公園で遊ぶ。そんな日常の中に溶け込んだ森だった。

そして、その森には他の神社とは少し違うものがあった。一つは森の西と東の入り口の木に巻き付けられた、わらでできた大蛇。もう一つは森の中にひっそりと置かれた社である。わらでできた大蛇、通称「わらへび」は市の指定無形民俗文化財に登録されているもので、毎年地域の人々が森に集まり、悪霊や疫病の侵入を防ぐために、森から生まれた藁を使って製作する。社はそんな森の中にぽつんと置かれ、まるで森に溶け込み、忘れられているかのように存在していた。

実際、この森は鎮守の森である。しかし、それをそうと認識している人はほとんどいないだろう。それでも、そこでは人々が礼儀をもって森に接する姿を見ることができた。木々の手入れをし、ゴミは一切落ちていない。落ち葉が積もれば誰かが掃き集める。そこにあったのは、意を決して境界線の内側へ足を踏み入れるような一般的な神社とは異なる、人々の居場所としての神社だった。では、なぜ信仰の場を隠そうとするのだろうか。

鎮守の森とともに育った私は、それは隠しているのではないのだと思う。生活のすぐ隣で神様が人々を見守り、人々は礼を尽くして森と接する。そして森の資源を活用し、その恵みに報いるように森を育てる。そうした開かれた信仰の場だからこそ、人々は無意識のうちに秩序を生み出しているのではないだろうか。

近年、このような鎮守の森も、かつてそこにあった想いが失われるにつれて伐採が進んでいる。境界線がないことの代償なのかもしれない。しかし一方で、鎮守の森は古くから生態系や樹相が大きく変化していない場所として、その地域本来の自然環境を知る手がかりになると考えられ、保全しようとする動きも広がっている。また、東日本大震災では、長く深く張った根によって防災林としての役割を果たした例も報告されている。

はじめは文化や習慣として始まったものだったのかもしれない。しかし、その積み重ねは結果として私たちの暮らしを守り、自然を守ってきたのである。みなさんの身近にも、何気なく存在している特別なものはないだろうか。普段は意識することがなくても、それらはきっと無意識のうちに私たちの生活や自然を豊かにしているのだと思う。そこには都会か田舎か、自然が多いか少ないかは関係ない。大切なものは、いつも私たちのすぐそばにある。

これからの世界に必要なのは、こうした人と自然との関わりの中で育まれてきた、ごく当たり前の習慣なのかもしれない。

行こうよ！水土里の旅！

□ 明治用水（愛知県安城市他7市）



明治用水は、1880年（明治13年）に通水した、矢作川を水源とする農業用水です。碧海台地の開拓を目的として、都築弥厚ら地域の人々の尽力により整備され、藩や国ではなく地域主体で進められた大規模なかんがい事業として知られています。

高度な測量技術と緻密な勾配設計によって長距離導水を実現し、西三河地域の農業発展の礎となりました。

こうした歴史的価値や技術的価値、さらに140年以上にわたり現役で利用されている点などが評価され、2016年に「世界かんがい施設遺産」に登録されました。

「日本のデンマーク」と呼ばれる所以

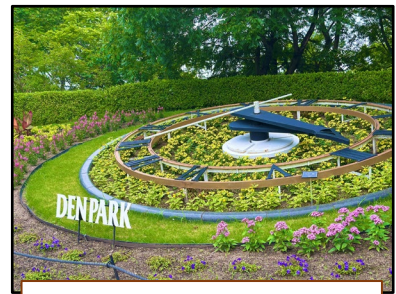
明治用水の完成により、約2,000haだった水田面積は明治40年頃には8,000haを超えるまでに拡大しました。

また、碧海台地の水はけの良い地形を活かし、秋には水を落とした後は畑として利用できたことから、麦・採種・れんげなどを栽培するに二毛作が盛んに行われ、耕地の高度利用が進みました。

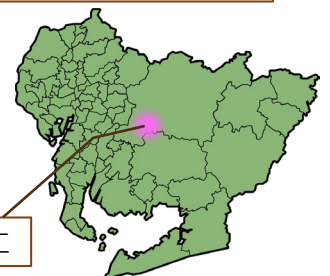
さらに、米作だけでなく、養鶏・養蚕・果樹栽培などを組み合わせた多角的農業も発展し、生産性の高い先進的な農業形成が形成されました。

こうした農業形態が農業協同組合を基盤として発展したデンマーク農業に重ねられ、この地域は「日本のデンマーク」と称されるようになりました。そうした安城市の農業の歴史から生まれたのが、「デンパーク」です。

風車とお花畑が広がる、季節ごとの絶景と体験が楽しめる愛知のフラワーパークです 🌸



安城産業文化公園デンパーク



明治用水頭首工

安城来たら、『北京飯』食べりん！

「北京飯」は安城のソウルフードと呼ばれており、地元民なら多くの人が知っている名物です。アツアツのごはんの上にとろとろ卵とカリッと揚げた豚の唐揚げを乗せ、甘辛ダレをたっぷり！一口食べれば、濃厚な旨みと病みつきになる味わいに思わず箸が止まらなくなる一杯です。

中国料理北京本店が特に有名！
JR三河安城駅から徒歩7分にありますよ！

⚠️ 大変混雑しますのでお早めに！



農業土木技術一プロの仕事

農業土木に関連する企業・団体が日々の業務で取り組んでいる技術情報を紹介する「農業土木技術一プロの仕事」。今回は、排水機場改修計画に伴う環境調査室の調査事例をご紹介します。

環境調査とは？

農業農村整備事業では、事業を進める中で「環境と調和への配慮」の実施が義務付けられています。工事予定地の生態系を守ることを目的としており、どんな生き物が住んでいるかを調べ、希少な動植物を保護するための対策を行います。

どこを調べたの？調査対象

今回は老朽化した排水機場を新しく建て直します。調査対象は以下の3か所です。



①旧排水機場



②排水機場につながる排水路



③新排水機場施設予定地

どうやって調べたの？現地調査

現地では植物の目視調査や網を使った昆虫・魚類の採取などを行い、生息している動植物を特定します。生き物によって主な活動期が異なるため、調査は四季（春、夏、秋、冬）の年4回、調査を実施します。



カゴ網

主な調査道具



タモ網



植物調査



鳥類観察・鳴声調査



昆虫類の捕獲

何が見つかったの？調査結果

調査結果から、生息動植物を整理します。保護対象を発見した場合、一時的に移動させたり生態系に配慮した施設計画を提案します。



カダヤシ(特定外来種)



ホトケノザ



カルガモ



エンマコウロギ



外来種は保護の対象外です。

【情報提供】 若鈴コンサルタンツ株式会社

サークル活動紹介

「秋田県立大学 Beginners サークル活動紹介」

今年からサークルネットに加入した秋田県立大学Beginners(ビキナース)です！私たちは分野に拘らず様々なボランティア活動を行っています。

①海岸ゴミ拾い 5月16日🌊

長野県の高校生親子から依頼があり、秋田県立大周辺の海岸のゴミ拾いを一緒に行いました！

海岸までの道のりにもゴミが沢山ありました。海岸にはタイヤや漁業ゴミなど大きなゴミがあり、処分に困り、もっと簡単にゴミ拾いが出来る制度が整えばいいのにと思いました。

今回は、たった一時間で5.5 kg拾うことができました。



②お相撲さん合宿手伝い 6月13日💪

秋田県の大潟村に夏合宿をしに来た押尾川部屋のお手伝いに行きました！押尾川部屋の夏合宿は、元関脇豪風の押尾川親方が率いる押尾川部屋が、秋田県大潟村で毎年行っている公開合宿です。

朝稽古を間近で見学できるほか、ちゃんこ販売などがあります。このイベントの会場設営や、会場内での案内などを行いました。



③藤里町お手伝い 6月28日🎵

秋田県の藤里町で開催されたポレポレキャラバンのお手伝いに行きました！ポレポレキャラバンとは、ケニア在住の早川千晶さんと音楽家の大西匡哉さんを中心に行われている全国ツアーです。スワヒリ語で「ゆっくり、のんびり」を意味する「ポレポレ」の名のとおり、音楽やトークを通じてケニアの文化や暮らし、社会課題などを日本各地に伝える活動です。私たちは、そのイベントで提供するカレーの盛り付けなどのお手伝いをしました。



【情報提供】クラウドファンディング(地域応援型)のご案内

三重県庁が棚田保全のためのクラウドファンディングを開始しました。集まったお金は、三重大学の学生の棚田保全活動にも使われます。

https://www.satofull.jp/projects/business_detail.php?crowdfunding_id=726

農業農村を応援する大学生サークル」の活動状況(Instagram)

☐日本グラウンドワーク協会公式Instagramにアップしています。

<https://www.instagram.com/groundworkassociationjp/>

【発行・お問合せ先等】 一般財団法人日本グラウンドワーク協会 中里

Tel:03-6459-0324 Mail:nakazato@groundwork.or.jp

グラウンドワークとは「協働で地域をよりよくする」という意味です。当協会は、「中間支援団体」として①地域活性化、②環境保全、③福祉、④棚田保全等社会的課題解決を目的に、若者(大学生等)参加及び男女共同参画による協働を主軸にした、いわゆる「日本型グラウンドワーク」を推進しています。